

岩日タイムズ

発行者
岩瀬日本大学
高等学校
新聞部

築 真優子
佐藤 真希
相澤 優花
谷田部 華蓮
飯岡 更紗
橋野 香歩
岡野 美未

届けたい熱い思い

英語で伝える楽しさ 英語スピーチコンテスト練習に密着

本日2月17日、13時30分から音楽室で英語スピーチコンテストが行われます。出場する生徒は、放課後などの空いた時間を有効に使い、本番に向けて練習を重ねてきました。今年には1年生7名、2年生10名の計17名が

出場します。コンテストは学年、コース関係なく全員が優勝を目指して切磋琢磨します。誰でも自由に観覧することができ、是非クラスメイトの応援に駆けつけてほしいです。今回は4名のスピ



本番に向けて繰り返し練習する中里さん

コン参加生徒に事前の意気込みをインタビューしました。
一人目は、国立クラス2年6組の中里健太郎さん。
「僕はもともと英語が得意ではなかったけれど、今回のスピーチコンテストを通して少しでも英語に対する苦手意識をなくすために参加しました。そして悔いを残さないように、一杯頑張りたいです」
二人目は、日大クラス2年3組の相澤優花さん。
「私は、今回のスピーチコンテストで一杯自分の練習の成果を発揮したいです。特にアクセントに注意して、スピーチをしようと思っていま

す。そして英語の先生になるという自分の将来の夢に少しでも近づけるようにしたいです。最初で最後のスピーチコンテストを全力で頑張ります」
三人目は、日大総進コース1年1組、熊谷萌々さん。
「悔いの残らないよう、全力でスピーチし、優勝を狙いたいです」
四人目は、国立特進コース1年5組の齋藤花純さん。
「担当の先生と念入りに打ち合わせして十分に練習の成果を活かしたいです」
スピーチの練習で忙しい中、4名の出場者がインタビュに協力してくれました



意気込みを語る熊谷さん(左)と齋藤さん

た。それぞれスピーチコンテストにかけてきた熱い思いが伝わってきました。今回取材できなかった参加者も自分の思いを一杯伝えようと、放課後などに練習している様子がうかがえました。また発音や表現方法について担当の英語科の先生に指導してもらった生徒も多く見かけました。審査員の先生や応援に来る生徒に向けて、一杯の気持ちで本番に挑んでほしいです。
(築)

今回の特集では、スピーチコンテストに出場する生徒に直接インタビューをしました。取材をした時点では、まだ本格的な練習は始まっていませんでしたが、どの生徒からも意欲あふれる気持ち伝わってききました。
「優勝したい」「練習の成果を全部出し切りたい」といった声がある中で誰もが共通して話していたことは「練習をたくさんしたい」「頑張りたい」ということでした。当日に向けて努力することで、もっと英語が上達すると思えます。そして英語が苦手という人にもスピーチコンテストに来てもらい、少しでも英語に興味を持ってほしい、英語を好きになってほしいと思えました。インタビューの様子や内容から、出場者の熱い思いが伝わってきました。コンクールでの活躍を期待したいです。
(佐藤)